

達成度：計画達成＝○、ほぼ計画達成＝△、計画未達成＝×

評価項目		表題及び項目内容	平成29年度		自己評価	達成度	達成度
大	中		目標値	実績値			
化踏Ⅱ ま、え地 た域 役医 割療 の構 明想 確を	標4 に、 係医 る療 数機 値能 目等 標指	(1) 医療機能・医療品質に係わるもの					
		救急搬送応需率（管内指示を除く、%）	95.0以上	99.2	目標達成。	○	
		手術件数（件）	7,900件以上	8,468	目標達成。	○	
		(2)その他					
		患者満足度（%）（外來說明）	80.2以上	78.7	目標未達。昨年度より向上しているが目標達成に向け更に努力したい。	△	
		患者満足度（%）（入院説明）	89.2以上	92.6	目標達成。	○	
	5. 住民の理解のための取組み	別紙1				○	
Ⅲ ・ 経営 の 効率 化に 係わ る計 画	1 ・ 経営 指標 に係 わる 数値 目標	(1) 収支改善に係わるもの					
		経常収支比率（%）	102.0	103.4	目標を達成し黒字を維持。経常利益額は1,207百万円。	○	
		医業収支比率（%）	101.6	103.3	目標を達成し黒字を維持。医業利益額は1,098百万円。	○	
		(2) 経費削減に係わるもの					
		材料費対医業収益比率(%)	25.1	27.2	目標未達だが、手術数の増加等により黒字を確保している。価格交渉や効率的な材料の使用を進め、より一層高い目標を達成できるよう努めたい。	△	
		100床当たりの職員数（人）	201.9	205.3	昨年度比正職員数ベースで医師1名、看護師を22名増員し、収支的に黒字となった。医療及び看護水準を向上させる職員を確保し、安定的な経営を行っている。	○	
		給与費対医業収益比率(%)	45.8	46.7	目標未達だが、昨年度比正職員数ベースで医師1名、看護師を22名増員しており、医療の質の向上が図れている。	△	
		(3) 収入確保に係わるもの					
		病床利用率（%）	90.0以上	93.3	目標達成。	○	
		平均在院日数（日）	13.0以下	13.0	目標達成。	○	
		入院単価（一般、円）	65,000円以上	70,628	目標達成。	○	
		外来単価（一般、円）	18,000円以上	20,274	目標達成。	○	
		(4) 経営の安定性に係わるもの					
		医師数（人）	255	251	目標を下回ったが昨年度より1名の増員を図ることが出来た。今後も医師確保に尽力したい。	△	
看護師数（人、常勤換算）	856.2	890.0	目標を大きく上回った。	○			
	的 け 達 3 な た 成 . 取 具 に 目 組 体 向 標	(1) 民間的経営手法の導入	別紙1				○
		(2) 事業規模・事業形態の見直し	別紙1				○
		(3) 経費削減・抑制対策	別紙1				○
		(4) 収入増加・確保対策	別紙1				○
IV. 再編・ネットワーク化に係る計画		別紙1				○	
V. 経営形態の見直しに係る計画		別紙1				○	

	平成29年度		
	目標（当目標は平成28年度に策定されております。）	実績	達成度
5. 住民の理解のための取組	医療に関する専門分野の知識を活かした講座等の開催や住民からの講師の派遣依頼に対応するとともに、広報誌やホームページを通じて旭中央病院のおかれる救急体制と重症者優先の取組みに理解を求めます。	市民健康講座は4回開催し延べ576名の参加があった。健康づくり出前講座は13回実施し453名の参加があった。広報誌「こんにちは」は4回（1号7,000部）、「がん診療あさひ」は2回（1号2,500部）発行した。外来担当表「インフォメーション」では「健康豆知識」コーナーを設けている。また、ホームページについても随時更新を行ない、最新の情掲載に努めている。	○
(1) 民間的経営手法の導入	地方独立行政法人化したことにより、従来に比べ予算の執行や、人員の配置に関して柔軟な対応が可能となったためこれらのメリットを活かし、新病院改革プランの目標を達成すべく経営に取り組む。	各科より申請のあった医療機器等について、導入時期、費用対効果（有益性）を十分検討し、導入が決定したものについては順次予算を執行している。また、昨年度有益な事業を検討した結果、H30年度中に新たな医療機器として、TAVI（大動脈 弁狭窄に対するカテーテル治療装置）を導入することを決定した。人員配置については人事課及び看護局に於いて適材適所を考慮の上、適正な配置を行なっている。	○
(2) 事業規模・事業形態の見直し	今年度より地方公営企業法の全部適用団体から地方独立行政法人となった。	平成28年度より地方独立行政法人に移行し、そのメリットを活かしながら全般に渡り経営努力した結果、引き続き黒字を維持することが出来た。	○
(3) 経費削減・抑制対策	① 後発医薬品の採用を促進し、患者の負担軽減と旭中央病院の費用節減に引き続き 努める。 ② 業務委託については、毎年度検証を行い、費用と業務を適切に管理するよう引き続き努める。 ③ 薬品費、診療材料費その他の経費について、品目ごとの使用状況、調達状況等を適切に管理し、費用の節減に引き続き努めるとともに、同種・同効能・同機能製品については統一化について検討を新たに実施する。	① 平成29年度各月80%以上を維持し、平成29年度平均で82.3%となった。 ② 毎年予算計上された業務委託を予算会議等も含め必要性を個々に精査し、その上で複数社の見積り合せ（入札含む）を行った。今年度当初見積額に対し72,837千円/年の削減。 ③ 適時、入札・見積り合せをした結果、薬品費43,300千円/年の削減。診療材料23,200千円/年の削減。消耗品4,600千円/年の削減。合計71,100千円/年の削減。 今年度薬事委員会に提案し削除した品目数は61品目となった今後も継続して取り組む。	○
(4) 収入増加・確保対策	① 効率的に高度な医療を提供するとともに、診療報酬改定等、制度や外部環境の変化に適切に対応できるよう医師、医事課等関係職員への研修会を引き続き開催し、常に適正な収入を確保するよう務める。 ② DPCデータや評価係数の分析・検討を引き続き実施し必要に応じて適切な対策を講じて収入を確保する。	① 毎月、医事課各係毎に勉強会を実施した。さらに外部から講師を招いて全職員を対象に診療報酬セミナーを3回実施した。また、外部での研修にも積極的に参加した。 ② 保険診療委員会を4回実施し、査定減点等やDPCコーディングの検討を行った。また、看護局と共同で在院日数短縮の対策検討のためDPCデータ分析を行いデータを提供している。	○
IV. 再編・ネットワーク化に係る計画	旭中央病院では引き続き、高度急性期、急性期を中心に担い、その他の機能については地域の医療機関と緊密に連携を取り、相互に補完しながらシームレスなケアの提供を目指す。地域の医療機関との連携体制を強化するため、地域の医療関連施設等を対象とした「地域医療者懇談会」を平成25年度以降毎年開催し、相互に意見交換をする場を設けている。	再編・ネットワーク化に係る計画については、地域医療連携推進法人制度について調査・研究を行なった。また、地域医療者医師懇談会を2回/年開催。介護等関係者も出席する地域医療連携懇談会を1回/年開催。地域医療機関との連携も継続的に推進している。	○
V. 経営形態の見直しに係る計画	地方独立行政法人化したことによるメリットを有効に活用し、医療の質、経営の質を高め、健全な経営の維持に努める。	平成28年4月より地方独立行政法人化したことにより、予算の複数年度化や職員定数等で経営の自由度が拡大した。これらのメリットを有効に活用し、中期計画や年度計画に基づき、業務改善、増収対策、経費節減等を行ない、医療の質、経営の質を高め、黒字を維持継続している。	○